

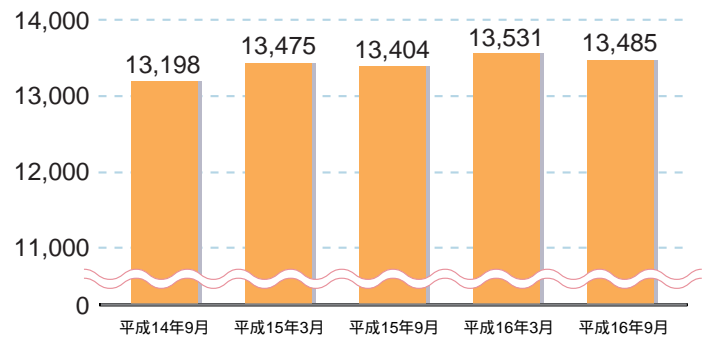
預金残高

個人・法人部門は安定的に増加

預金の期末残高は、期中46億円減少して1兆3,485億円となりました。部門別では、預金全体の約9割を占める個人預金および法人預金は233億円増加しましたが、地方公共団体の公金預金は予算執行の進捗などから減少しました。しかし、前中間期末比では個人預金の増加を主因に80億円増加しました。

預金の推移

単位：億円



(注) 預金残高は銀行勘定と信託勘定の合計。

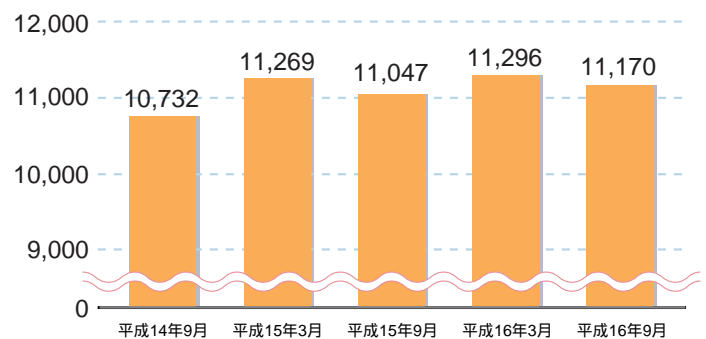
貸出金残高

例年の季節パターンから減少

貸出金の期末残高は、年度上半期には事業性資金需要が低下するという例年の季節パターンなどから期中126億円減少し、1兆1,170億円となりました。しかし、前中間期末比では個人ローンが順調に増加していることなどから122億円増加しました。

貸出金の推移

単位：億円



自己資本比率

自己資本比率は10%を上回る高水準

自己資本比率は、経営の安全性や健全性を図る指標の一つで、企業の利益や資本金などが貸出金などの資産規模に比べてどの程度充実しているかを表わします。この比率は、国内のみで営業している銀行は4%(国内基準)以上、海外に営業拠点を持つ銀行は8%以上が必要です。当行の自己資本比率は、国内基準の2倍以上となる10.85%の高水準を達成しています。

自己資本比率の推移

単位：%

